

令和6年度 神奈川県立菅高等学校 不祥事ゼロプログラム

課題	法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	
目標	教育公務員として相互に意識を喚起しあい、わいせつ事案の根絶を含め、高い倫理意識をもって職務を遂行する。	
行動計画		検証結果
	① 事故防止会議、不祥事防止研修を定期的に開催し、服務についての自覚と規範意識を高めていく。 ② 教育公務員として公務内外において、常に高い倫理観をもって行動する意識を高め、職場討議を通して啓発を図る。 ③ 職員間の信頼関係を基盤とした働きやすい職場環境を整備し、法令遵守と規範意識を高める。	不祥事防止について事故防止会議等を通して、倫理意識の醸成を図った。職員啓発資料や記者発表資料等を紹介し、教育公務員としての自覚と職員同士でチェックしあえる環境づくりに努めた。

課題	職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	
目標	常に相手の立場を意識した言動を心がけ、あらゆるハラスメントを許さない、見逃さないという強い意識を全職員で共有してハラスメントを防止する。	
行動計画		検証結果
	① 相手の立場や気持ちを「推し量る」コミュニケーションを意識して風通しの良い職場環境を構築する。 ② 人権研修等を通じて、ハラスメントの意識と他者を理解し思いやる気持ちを高めるとともに、相互の認識を深めハラスメントの防止につなげていく。 ③ 定期的に管理職との面談を行い、相談しやすい雰囲気を作り、ハラスメント等について早期に対応する。	不祥事防止資料等を用いてポイントを押さえ、ハラスメント意識と、人権研修による他者に配慮する意識を高めた。

課題	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	
目標	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為が起きない環境を整える。	
行動計画		検証結果
	① 準備室の窓は中が見えるようにし、密室で1対1の状況を作らない等の基本的規範と未然防止を徹底する。 ② 生徒とのSNS等のやり取りは厳禁とする等の基本的な事項を徹底する。 ③ 生徒指導・支援を行う際には、総括教諭及び管理職へ事前事後の報告を必ず行い、組織的に対応する。	わいせつ事案をはじめとする不祥事防止に向けた取組については、継続的・計画的に校内研修会等を実施した。その結果、教職員の意識が向上し、不祥事防止につながった。

課題	体罰、不適切な指導の防止	
目標	生徒一人ひとりが置かれた状況を広い視野をもって理解し、個々の生徒に応じた適切な指導・支援を行う。	
行動計画		検証結果
① 多様な生徒に対する理解を深めるため、情報交換や情報共有を重視する。 ② 様々な状況の指導場面で複数の教員で生徒の指導に当たり不適切な指導が起こらないよう協力体制を構築する。 ③ 外部講師等による研修を実施し、生徒に関わる諸問題と対応について理解を深め、指導・支援を行う。	不祥事防止会議等を通して、各自の人権意識を高めることができ、教職員の意識の向上につながった。	

課題	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	
目標	業務における留意点を明確にし、新たな情報を速やかに共有することで事故を未然に防止する。	
行動計画		検証結果
① 前年度の反省点や引継ぎ事項等をしっかりと検証した上で、今年度のマニュアル・手順書の確認をし、より安全で正確な作業手順に基づいた業務を遂行する。 ② 作業全体を計画的に実施し、留意すべき点について研修を実施し、職員全体で周知徹底を図る。 ③ 業務の重要性を職員全体で共有し、職員一人ひとりが自覚と責任をもって業務を遂行し事故防止にあたる。	入学者選抜業務では、昨年度導入された出願システム、進路関係書類では、調査書の作成・発行、成績処理では通知書について、担当グループ等で点検体制を構築し、慎重に業務を進めた。その結果、ミスなく適正に業務を行うことができた。	

課題	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	
目標	文書や電子データ、あるいは生徒の携帯電話の番号等も含めた個人情報の適正な管理を徹底し、個人情報の流失や誤廃棄等の事故が起こらないよう未然防止を図る。	
行動計画		検証結果
① 個人情報を校外に持ち出さないよう業務体制を整備し、文書や電子データを適切に管理する。 ② 学校所有の携帯端末を活用することにより職員が校外から家庭連絡できる環境を整備する。 ③ 事故防止会議等の職員研修を行い、個人情報に関する職員の意識を高め事故防止にあたる。	個人情報の取扱いについて、情報セキュリティ監査)を機に各教職員が日常的に点検・チェックを実施する姿勢が見られた。その結果、教職員の意識が向上し、不祥事の防止につながった。	

課題	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	
目標	交通法規の遵守の徹底を図る。	
行動計画		検証結果
	<p>① 通知や事例の紹介、啓発ポスターの掲示などにより、交通法令の遵守を啓発する。</p> <p>② 日常的に職員相互の声掛け等により、酒酔い・酒気帯び運転の防止といった意識を組織的に高める。</p>	日常はもとより、年末など酒酔い運転等が予想される時期に関しては重点的に注意喚起を行い、交通安全への意識向上に努めた。

課題	業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	
目標	グループ・学年・教科内で業務協力体制をより強化し、会議・打合せ等で職員の意識向上とモラルの維持を図り、組織としての業務遂行に自覚をもって取り組む。	
行動計画		検証結果
	<p>① 業務の効率化と組織としての業務改善の両立を図る。達成感を共有できる協力体制を構築する。</p> <p>② 相互チェックする際、常に問題意識をもって点検し、加えて業務の一層の効率化と負担軽減を一体として業務にあたる。</p>	事故防止に向けた職員啓発資料等を活用して、職員研修を実施した。その結果、教職員の意識が向上するとともに、各自が事故への未然防止に向け、自覚と責任を持って取り組む姿勢が見られた。

課題	財務事務等の適正執行	
目標	会計マニュアルによる適切な私費徴収・執行事務を徹底する。	
行動計画		検証結果
	<p>① 業務執行体制（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）を確立する。</p> <p>② 計画的に伝票を作成し、執行から事後処理に至る各段階で複数によるチェックを確実に行い、事故防止にあたる。</p> <p>③ 会計業務の仕組み・手順について全職員が理解を深められるよう説明会等を実施し、業務の効率化を一層推進する。</p>	適正な執行に向け職員の意識を高め、私費会計基準に則った事務処理及び物品管理を徹底した。特に、部活動費会計について、迅速に処理をするよう指導助言を行った結果、適正な執行につながった。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

令和6年度の不祥事ゼロプログラムの各取組項目について、行動計画に基づいて概ね実施できている。ここ数年「わいせつ・セクハラ行為・パワハラ防止」については、県下で不祥事事案が依然発生していることから、不祥事防止に向けた研修や個別面談を通じ、職員への意識啓発を行った。今後も引き続き研修等を通じ継続していく。会計事務の適正執行については、財務事務調査等の指摘事項に基づいて、必要な改善を行っていく。

今後もリーダーシップを發揮し、教職員一丸となって不祥事防止に努めていきたい。